

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予報第4号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病害虫発生予報第4号

平成28年7月4日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が40.0%, 発病度が2.3で、平年(9.2%, 0.3)に比べて高い。特に、県東部沿岸地域で発生が多い(発生圃場率42.9%, 発病度3.1)。

(2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤の場合は出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに防除を行なう。また、出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行なう。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%, 発病株率が8.8%で、平年(2.6%, 1.0%)に比べて高い。

(2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、株あたり虫数が0.13頭で、平年(33.2%, 0.07頭)に比べてやや高めの発生である。
 - (2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 箱施葉殺虫剤は、残効性に優れるものでも施用後約2か月でその効力はほぼ消失する。
 - (2) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

斑点米カメムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「中～多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月後半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点あたり捕虫網20回振り)では、20地点のうち12地点で生息を確認した。捕獲地点率が60.0%、1地点あたりの捕獲虫数が10.2頭で、ほぼ平年(67.2%, 7.6頭)並の発生である。
 - (2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない**)。
 - (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
 - (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

普通期水稻

葉いもち

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が1.2で、平年(3.2%, 0.1)に比べて高い。
 - (2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 今後の発生状況に十分注意し、曇雨天が続き上中位葉へ病斑の進展が見られる場合は、薬剤散布を行なう。

セジロウンカ

- 1) 予報内容
発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が26.7%で、平年(14.6%)に比べてやや高いが、株あたり虫数は0.02頭で、平年(0.02頭)並の発生である。
 - (2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では, 発生圃場率が81.3%で, 平年(90.0%)並の発生であるが, 被害度は3.3で, 平年(6.6)と比べてやや低い。
- (2) 6月のフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は, 6月1半旬から3半旬までは平年に比べてやや高めに推移し, 4半旬に急増したが, 6半旬には平年並の誘殺数となった(図1)。また, シロイチモジヨトウの誘殺数は, 6月1半旬以降平年に比べてやや高めに推移していたが, 6半旬には平年に比べて低い誘殺数となった(図2)。

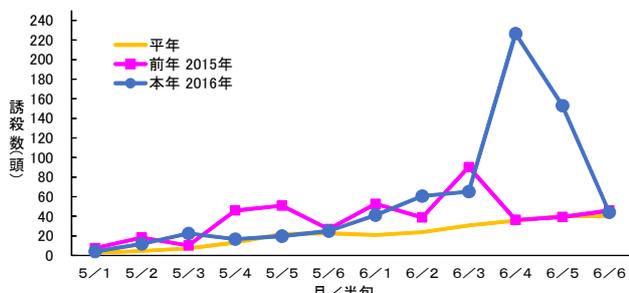


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

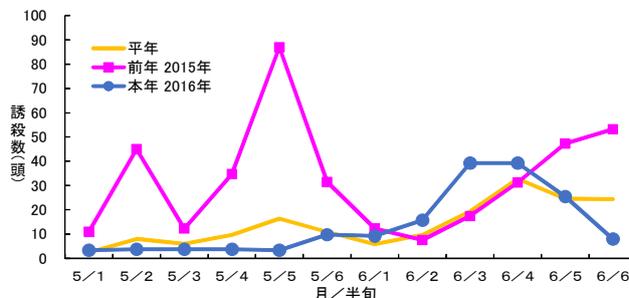


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)
* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

- (3) 6月30日発表の1か月予報では, 期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので, 若齢幼虫期に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では, 発生圃場率が62.5%で, 平年(64.6%)並の発生であるが, 寄生葉率は7.7%で平年(13.4%)に比べてやや低い。
- (2) 6月30日発表の1か月予報では, 期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

II. 果樹

カンキツ

かいよう病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月前半の巡回調査では, 発生圃場率が56.3%で, 平年(28.9%)に比べてやや高く, 春葉の発病度は0.6で, 平年(0.01)に比べて高い。
- (2) 6月30日発表の1か月予報では, 期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並, 日照時間は平年並か多いと予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) ミカンハモグリガなどの害虫の食害痕は病原細菌の侵入門戸となるので, ミカンハモグリガの駆除

に努める。

(3)風当たりの強い園では防風対策を講じる。

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い),発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 6月前半の巡回調査では,春葉の発生圃場率が25.0%,春葉の発病度が0.4,果実の発病度が1.0で,平年(6.1%,0.1,0.0)に比べて高い。

(2) 6月30日発表の1か月予報では,期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く,降水量はほぼ平年並,日照時間は平年並か多いと予想されており,発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)発生が多い園では,黒点病の防除を兼ねて薬剤防除を行なう。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月前半の巡回調査では,発生圃場率が37.5%で,平年(30.4%)並の発生であるが,寄生葉率は1.3%で,平年(4.5%)に比べてやや低い。

(2) 6月30日発表の1か月予報では,期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く,降水量はほぼ平年並,日照時間は平年並か多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には,葉裏まで薬液が充分かかるよう,丁寧に薬剤を散布する。

(2)ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので,同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月後半の巡回調査では,発生圃場率が12.5%で,平年(16.7%)並の発生であるが,寄生葉率は0.3%で,平年(1.3%)に比べてやや低い。

(2) 6月30日発表の1か月予報では,期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く,降水量はほぼ平年並,日照時間は平年並か多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には,葉裏や徒長枝にも充分な量の薬液がかかるよう散布する。

(2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

カメムシ類(ツヤアオカメムシ,チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)勝浦町および上板町の予察灯へのツヤアオカメムシ,チャバネアオカメムシの誘殺数は,ともに平年に比べて低く推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
6.1	0	29	154	7	86	0	34	116	2	23	0	34	116	2	23
6.2	29	69	355	17	106	0	36	130	5	27	0	36	130	5	27
6.3	24	185	123	136	146	1	13	20	34	25	1	13	20	34	25
6.4	22	107	252	61	236	3	1	12	4	20	3	1	12	4	20
6.5	9	191	236	16	137		25	24	0	13		25	24	0	13
6.6		100	144	0	112		11	24	7	12		11	24	7	12
7.1		51	31	32	60		6	88	2	12		6	88	2	12

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
6.1	0	7	42	3	17	3	38	30	0	10	3	38	30	0	10
6.2	4	0	116	1	16	0	3	55	1	13	0	3	55	1	13
6.3	4	39	52	12	37	1	4	16	3	8	1	4	16	3	8
6.4	1	25	19	7	26	9	2	14	8	12	9	2	14	8	12
6.5	7	22	20	5	28		10	24	0	19		10	24	0	19
6.6		57	48	0	47		14	89	3	27		14	89	3	27
7.1		45	164	11	44		13	69	1	23		13	69	1	23

(2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林、特にサクラやキリ等から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病葉率が0.1%で、平年(20.1%, 2.1%)に比べてやや低い。
- (2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%で、平年(58.7%)に比べて高いが、寄生葉率は4.0%で、平年(5.0%)並の発生である。
- (2) 6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。寄生場所は主に葉であるが、果実の萼の裏側にも好んで寄生するので、防除の際には、葉裏や果実の萼部に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)6月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が17.2%、寄生新梢率が1.1%)。
- (2)6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)6月後半の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生葉率が0.1%で、平年(43.9%、3.7%)に比べて低い。
- (2)6月30日発表の1か月予報では、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

IV. その他

- 1)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。